

がん患者家族語らいの会 講演会のご案内

1. 開催日時：2024(令和 6)年 6 月 8 日 (土)
第一部 14 時～15 時半 ご講話 / 第二部 15 時半～16 時半 話し合い
2. 開催場所：第一伝道会館2階 伽羅
3. ご 講 師：北村 信也 氏 (浄土真宗東京ビハーク副会長・東京教区東組稱讃寺住職・本願寺派布教使)
4. 講 題：『宿縁と宿業』
5. 参 加 費：500 円 (ビハーク会員は無料)

【講師経歴】

1962年鹿児島県生まれ。龍谷大学真宗学修士課程修了。
1989年より京都・本願寺宗務所勤務。1995年築地本願寺勤務。2002年足立区に首都圏開教として布教所を開設。同年、当会「浄土真宗 東京ビハーク」に入会。現在、副会長。寺院では2007年に非法人教会、2009年に御本尊をお迎え。2013年から非法人寺院稱讃寺住職として現在に至る。寺院活動以外では、町会長に就任し、10年目になる。



【講演の内容】

私たちは、感情を持ち、「業」を生きている。「業（カルマ）」は、仏教が説かれる以前から印度では一般的に説かれていて、仏教は教えを広めるために、「業（カルマ）」を取り入れた。仏教は、業を説いたのではなく、「縁起の法」を説いたのですが、仏教の「業（カルマ）」を私たちは誤解して単に「因果応報」として捉えている。時として「宿業」を「運命」と同様に捉え、差別を助長さえしている。また、不変の自分があり、「輪廻転生」を説いていることが、仏教とも思い込まれている。

世界で分類されている4つの「苦・痛み」である一つ、または他の3つの根元と言われる「スピリチュアル・ペイン」（スピリチュアルの日本語としては、霊的・根源的）は、この間違った「業（カルマ）」に囚われているからこそではないだろうか。

親鸞聖人の著述には「宿業」という言葉は、一度も使われていない。一方、「遇、行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ」とおっしゃっている。この「宿縁」とは何だろうかということの私なりの理解を話してみたいと思います。

また、臨床心理学で用いられる「ナラティブ（物語る）」ということが、救いに繋がるようなことに取り扱われている向きがあるようですが、感情で受け取る私たちには、その救いのプロセスは分かり易いのでしょうか。仏教以外の教え（外道）が拠り所として、いることに、「前世に作った因」「神の思し召し」「唯物論（現実だけを肯定する）」の三種があるそうです。仏典も物語りが多くあり、比喩表現もいっぱいあります。それは、真理を伝えるための「方便」であり、外道の教えと混同してしまいがちなのが、私たちなのでしょう。人の感情は本音であり、大事なものです。「心を弘誓の仏地に樹て、情を難思の法海に流す」（『浄土文類聚鈔』）と言われていることは何でしょうか。皆さまのご意見をお聞かせ頂けたらありがたいです。

【ご参加について】

申し込みは不要です。ご参加を希望される方は、直接会場までいらしてください。
講演会の問い合わせ先：東京ビハーク 平日 14 時～17 時 TEL03-5565-3418
〒104-8435 東京都中央区築地 3-15-1 築地本願寺内